

第十一章 九月十一日大震災善後会の成立と運営

九月十一日渋沢栄一は午前八時に飛鳥山の自邸から出発し、秘書白石を伴って宮内省関屋次官を訪問し、ついで内務省救護事務所で内務大臣後藤新平に挨拶した。午前十時からは東京商業会議所において大震災善後会發起人が開催され、議長徳川家達の選出と渋沢の経過報告ののち、同会の成立と各部役員を決議する。午後には河井書記官長等とともに再度後藤を訪ね、善後会の発足を報告した。

白石喜太郎の手記

九月十一日

午前八時頃飛鳥山邸発、白石随行

午前八時半関屋宮内次官ヲ訪問、大震災善後会総裁ニ皇族奉戴ノ件ニ付テナリ

午前九時頃臨時災害救護事務局ニ後藤子訪問、同シク皇族総裁奉戴ニ関スル協議ノ為ナリ

午前十時、大震災善後会第一回委員会ニ列席ノ為メ、東京商業会議所ニ赴ク、徳川公座長、渋沢子爵説明、拍手ノ許ニ会成立、委員並ニ常務委員ヲ指名、常務委員ヲ救済部及經濟部ニ分チ、夫々部長ヲ選ヒ、救済部

ハ青木信光子ヲ、經濟部ハ阪谷男爵ニ決定、直ニ各部委員会開催、午後一時再ヒ後藤子爵訪問、青木子爵・伊沢多喜男・河井書記官長等同行ス〔中略〕

大震災善後会へ、渋沢子爵ヨリ金五万円寄附ス ①

大震災善後会發起人会

大正十二年九月十一日午前十時より当所に於て開会

徳川公爵議長に推薦せられ議長席に着き開議

◇会議経過大要

開会劈頭渋沢子爵一同に挨拶して徳川公爵を議長に仰ぐことを提議したる後去る九日の実業家協議会および貴衆両院議長・実業家代表協議会の経過報告ありたり

徳川公爵議長に推薦せられて議長席に着き議長の指名により渋沢子爵に罹災民の救済及経済界復興を目的として本会を組織せる所以及本会を組織するに至れる経過の概要を報告せられたり

【趣意書決定】徳川議長趣意書の決定を提議し（河井貴族院書記官長趣意書朗読）出席者文々意見の交換を為したる後議長は大体に於て異議なきものと認むるが故に決定すべしと述べられここに大震災善後会の趣意書は決定せり

【大震災善後会規約決定】徳川議長より大震災善後会規約の提議ありて異議なく之を決定せり

【会長及副会長推薦】徳川議長より大震災善後会規約第六条第一項により会長及副会長を推挙すべき旨述べられたるに對し和田豊治君より会長は徳川公爵、副会長は粕谷衆議院議長、渋沢子爵及山科東京商業會議所副会頭の三名を推挙することを提議せるが該提議はいぎなく之を可決せり

【役員の決定】つぎに徳川議長は規約第六条第二項により本会委員及幹事の囑託を為す〔中略〕

◇趣意書

関東地方に於ける今回の災害は震災に次ぐに火災を以てし実に前古未曾有の大惨事たり就中東京横浜の如きは被害最も激甚にして全市忽ち焦墟阿鼻叫喚の巷と化し死者数十万傷者算なし骨肉離散して互に生死を知る能はざる者或いは家を喪うて衣食の窮乏に号泣する者其数を知らず而も時漸く寒天に向ひ疫癘將に相踵かむとす加之積年の経営一朝にして灰燼に帰し、経済諸般の組織は悉く根底より覆滅せられて其の跡を止めず我財界の危機之に過ぎぐるものなし慘憺たる光景誰か袖手傍觀に耐えん

畏くも皇室よりつとに御内努金を下賜せられて救恤の資に供せしめらる 聖旨の優渥なるまことに感激措く能はざる所なり 是を以てここに同志相謀りて大震災善後会を組織しあまねく天下の同情者に訴え義金を醸集し之を焦眉の救済に資せんとす更に進むでは此の壊滅せる経済組織の復興に關し必要なる施設を攻究し以て百年の大計を禱補するところあらむ欲す切に希くは大方の士本会の趣旨に賛し此の挙を助成せられん

① ことを

翌々日の『時事新報』には「震災善後会成立 貴衆両院及び財界巨頭を網羅」との見出しが第三面トップに掲げられ、同会の規約ならびに趣意書とともに、常務委員として救済部十二名と経済部十二名の顔触れも報道される。② 青木信光、団琢磨、黒田清輝、鳩山一郎等から成る救済部会および和田豊治、星野錫、阪谷芳郎等から成る経済部会は、発起人会が成功裏に終了したあと、ただちに最初の会議を開いた。

善後会常任委員會議事録

◇第一回救済部会

大正十二年九月十一日午前十一時より当所にて開会。

青木子爵救済部長に推薦せられ議長席につき開議

決議事項

- 一、寄付金募集方法（イ） 地方長官並地方団体商業會議所等に依頼して其の配慮に依り醸金の勧誘を乞ふこと（ロ） 募集金の一部を募集費用として交付することは否決 但募集費用として実費を支弁すること

① 「大震災善後会発起人会」『東京商業會議所報』第六卷、第十号（大正十二年十一月五日）十九—二十頁

② 『時事新報』大正十二年九月十三日号、三頁。

(ハ) 新聞紙に広告すること (ニ) 個別的に勧誘状を送付すること

一、寄付は金銭に限ること [中略]

- 一、寄付金の分配方法は臨時震災救護事務局と交渉し同時に委員会の決議を経て行ふこと
- 一、救済方法に關しては政府の救護方策に關し注意を促し同時に必要なる建言を為すこと
- 一、救済部委員は毎日午前十時に集合すること

◇第一回經濟部會

大正十二年九月十一日午前十一時より当所に於て開會

阪谷男爵經濟部長に推薦せられ議長席に着き開議

決議事項

- 一、阪谷男爵經濟部長を推薦すること
 - 一、各委員は毎日午前十時当所に參集して協議すること
 - 一、差向保險及銀行問題を研究すること
 - 一、各自意見ある場合は部長及服部幹事の下に提出すること
 - 一、なお政府当局と交渉の任に當り都市建設に關しても攻究すること
- ①

① 「救済部會」および「經濟部會」『東京商業會議所報』第六卷、第十号(大正十二年十一月五日)三〇、

三四頁。

貴衆兩院と有力実業家の提携を実現すべく奔走した貴族院書記官長河井弥八は、善後会を統轄する総務部の主務幹事に選出された。この機関の主要な使命は震災に際する義捐金の募集と配分であつて、救済と復興へのいはば間接的支援である。その組織および運営について、七年後に語られる河井の証言を参照する。

大震災善後会の組織と運営(河井弥八談話)

次で九月十一日に大震災善後会と云ふものが成立致しました。此時会の組織を決めて、趣意書を作り、規約を定めまして、職員を拵えたのであります。会長副会長は最初に申上げた通りであります。尤も商業會議所の会頭藤山君が洋行中でありましたので、帰朝せらるるまで山科礼蔵君が副会長を勤めて居られました。それから委員には兩院議員実業家の方々がなされました。其数は終りには必ずしも五十名と云ふことでなしに、もっと殖えました。其他各府県の知事、官界民間の有力者をば評議員として囑託致しまして、御尽力を願つた次第であります。

本会は初めの成立ちが救済と云ふ事と經濟の復興と云ふ事から出来ましたから、其組織も亦之に伴つて居ります。即ち救済部、經濟部、こう云ふ二つの部會がありまして、そうして其部會が各々色々な問題を研究致しまして、そうして或いは部會の連合会を聞き、或いは總會を聞きまして急速に種々の事柄を決定致したのであります。さうして其事柄が決定されますと之を総務部の方に移しまして、総務部が之を執行することにしたのであります。斯様にして九月十一日より翌年三月十三日に其目的を達成して解散致しまするまでの

間に、救済部会は会議を開くこと二十三回決議を経たるもの五十七件に達し、經濟部は会議の回数十五回決議件数二十一に上り、総務部会は二十余回を重ねました。解散後は残務を処理する為に会長、副会長、部長、会計監督及理事が残りました、約一年を経て全く其仕事を終りました。

是より事業の大体を申し上げますが、先ず救済部に於きましては資金を多く集めることが第一の急務であります。当時印刷機関、運輸交通機関の如きは全く破壊されましたから、趣意書を印刷しますにも非常な困難を致し、又それが出来ましても之を他の府県に送るには容易ではありません。先ず九月十三日以後都下大阪等の新聞紙に依て広告を為し、印刷物は出来次第之を各府県や商業会議所へ発送致しました。之に対し幸にして各方面から多額の寄付金を集め得たのであります。即ち寄付者の重なるものは華族、実業家、各府県の知事の配慮による多数国民の贖出に係るもの其他外国人からも大分集まりました。其総額は四百四十万余円余の達し其利子は三万七千円に上りました。〔中略〕

其金の使ひ方に付ては救済部に於きまして迅速に適切なる研究を致されたのであります。それで先ず九月二十六日には第一回として百万円を東京市、東京都、横浜市、神奈川県、千葉県、埼玉県、静岡県に分配致しました。其分け方に付ては救済上最も適切と認むる事業を研究して其事業に費すことを条件としたのであります。唯漫然と府県なり市なりの当局に御任せして差上げることは致しませぬでした。是れこれの仕事をして戴きたい、さうすれば是れこれの金を上げますと云ふ風にして差上げたのであります。其次に第二回に分けましたのは、十月二十六日に百万円を支出したのであります。是も地方団体、即ち東京市、東京都、横浜市、神奈川県、千葉県、埼玉県、静岡県、山梨県に差出しました。矢張り緊要と認めたる事業を指定してあります。其次に出しましたのは数回に亘りまして百六万円を東京府、神奈川県、静岡県の信用ある社会事業団体に出しました。其団体の数は八十五に上りました。①。

『銀行通信録』に掲載された渋沢の回顧は善後会発足からわずか五十日後に公刊され、これらの組織と運営が記録されるだけでなく、議員と実業家から成る会議の雰囲気をも彷彿とさせる。

渋沢栄一「大震災の追想と所感」その八

一方は徳川議長、一方は粕谷議長に通知を致し、十一日に全体の会議を開きました、会名は未だ設けてない、何としたら宜からうか、大震災善後会が宜からう。団体の組織は会長・副会長・委員・幹事を置き、是等の人々を分つて、総務部・救済部・經濟部とし救済部は救護に関する事、經濟部は或は経済の安定も図り復興も論ずると云ふやうな事にする、此両部は或る場合には一緒になつて評議し又更に委員が大勢出来て居りますから、其間総会を開いて極く重大の事は決する、実施は総務部が会長・副会長の命に依つて行ふ。長には徳川、副会長には粕谷・渋沢・山科―藤山氏が帰つて来てから山科氏に代りました―、それから經濟部・救済部両部の部員は会長指名と云ふことになりましたから、会長に銘々の希望を申出て定められた。今総体の人数がどの位になつて居りますか、双方とも十四・五名宛でありませう、頻に色々の事を評議してやつて居る、一方には寄附金を募集する、此寄附金が、既に大きいお月さんが出たものだから小さい星は光が

十分輝かぬで、海外の寄附金などは救済事務局の方へ来ます。若し吾々がもう少し早く造つたら吾々の方へ来る分も余程あつたですが、甚だ残念ながら亜米利加から来る小二百万の吾々の方へ来るべきものも皆救護局の方へ来てしまつた。何処へ来ても構はぬ、別にそれに付て彼れ此れ言ふ必要はありませんが、それでも善後会でもザツと四百万円にはならうと思ひます、或は進んで五百万円位になるかも知れませぬ。今迄評議して居る事柄に付ては数々ありますから、これあれと一々丁寧にお話することは甚だ困難であります、其中でも今の保険問題などは經濟部でしばしば論じて居ります。又各地の巡回などは救済部の方で横浜・横須賀・房州、又は埼玉県迄も出掛けて実地視察をしました、私は老人故に御免を蒙つて居る。皆さんが見もし聞きもし又調べもし、見込も立てると云ふやうな有様からして、左まで有効の団体とは申しませぬけれども兎に角五百万近い寄附金を募集し得るしお顔ぶれも中々委員の連中は立派なものです、高橋是清さんも加藤高明さんも床次竹二郎さんも小川平吉さんも中橋徳五郎さんも、若槻さんは見えませぬが、下岡さんも、政友会なり憲政会なり革新倶楽部なり、有力なお方は大抵網羅されて居る、為に事に依ると議論が多くて仕事に渉らぬと云ふ嫌がないではありませぬが、併し大頭はさう出はさせぬで、唯々己れも同意だから宜いわ、遣れと云うて奥の方の四本柱に威張つて居るやうな有様で、工合好く善後会は進みつ、あります。集つた金の中で最初各地方へ取敢ず百万円分けやうと云ふので、東京に横浜に或は神奈川に埼玉県に千葉県に静岡県にポツポツ別けて到頭二百万円だけさう云ふ地方分割の法を立てまして、それから更に他の方法としては、或は社会事業団体とか云ふやうな事が中々数多くあります。さう云ふものに付て追々に必要の仕事させる為に、どうも会自身に仕事をする訳にいかぬから、之が適当と思ふ者に向つて、多くは救済に属することですが、其救済にも直接救済と未来の為になると云ふことも多少差組んで取扱ふ筈になつて居つて、此四百万円若くは五百万円に近い金は全く有効に無駄なく使ふ積りであります。時時に善後会に出て見ると、議論に花が咲くこともありますけれども、全く一致の感情を以てやつて居りますから、或る得失に付ての議論はあるが、決して野次ツたり反撥したりすると云ふ事はありません。誠に工合好く、あ、云ふ塩梅に総ての会が開けたら宜からう、そんな事は面前では申しませぬけれども、両院に居らる、方が斯う云ふ味ひに総ての議事をやつて下さつたら、誰も嫌気は持たぬであらう、此方に出て論ずると帝國議會で論ずるのは、まるで發言の觀念から違ふやうに見える、或る場合には斯様に深切に胸襟を開いて是を是とし非を非とするのに、なぜ帝國議會へ出ては是程智恵のある人が、あ、ひねくれた議論ばかりするだらうか、併し又斯様に忠実の觀念を以て論じて呉れる所を見ると、そんなに心配せぬでも宜い國民であると思ふと、喧しくも自ら起る位。即ち此会の總會の時などは大分一騎当千の議論家が打寄りますから喧しからうと思ふと、喧しくない実に猫のやうです、真とに嬉しい事だと思ひました。①

洪沢とともに善後会副会長に選ばれた粕谷義三は明治三十一年の総選挙で衆議院に初当選した。彼の経歴と功績については、所縁ある埼玉県人会の『竹堂粕谷義三伝』に詳細である。大震災の半年前内外の厳しい政情において、混迷する衆議院の議場を粕谷は收拾し、以後名議長の評価を博す。

粕谷義三と衆議院議會

当時の政情は外に在りては、日露予備会商不調に終り、日英同盟破棄され、山東、及びシベリアの撤兵を行う等相当多事であり、且つ華盛頓海軍縮小會議に於ける比率の協定は吾国防上の欠陥を齎らすものとして、国内に反対論が多かつた。而も此の超然内閣に対し憲政会、革新俱樂部は強硬なる態度を以て臨みて、政友会は内閣支持の立場に在り、政界の前途相当波瀾を思わせる間に第四拾六議會は同年十二月二十六日を以て召集された。此項より議長奥繁三郎の健康勝れず、開期劈頭より副議長粕谷は専ら議場整理の大任に當つてゐた。これ当時の速記録の示す処である。斯くて同期の議會はまず海軍縮小問題が論議され予算案の審議未だ終らざるに二月十五日憲政会の安達謙蔵革新俱樂部の浜田国松等提出者となり内閣不信任案が上程された。然るに本案の討論に方り議長奥繁三郎の処置に対し、横暴不公平の非難轟然として起り会場騒然又騒然、数次休議を重ねて再会すれば一層喧囂甚だしく果ては各派議員間に格闘さえ起る有様なので奥議長其席を退きて粕谷副議長に救援を求め粕谷副議長は議院法第八十八条に基き議事の中止を命じ散会を宣した。ここに於いて奥議長は即日責を負ひて辞任し、同十七日の議場では先ずその後任議長の選挙が行はれた。同日の出席議員は三百二十一名、而も粕谷は議長席に就きて自選の一票を放棄したので投票総数三百二十は悉く粕谷義三と認められ、吾が議會政治に於て空前絶後との云うべき全会一致を以て粕谷は議長に当選したのである。真に粕谷議長は政界を照す一明鏡とも云ふべく政党政派を超越して全議員の信望如何に厚かつたかは同日選挙の後年長の故を以て議員を代表せる斎藤寿雄の次の祝辞の裡に尽されて居る。「公平無私なる副議長粕谷義三君は本日ここに議長に当選せられたことは最も欣幸とする。粕谷議長の人格高潔、熟練達識なるは既に

諸君の知る所であつて是より後憲政の發展に一層の光彩を添ゆることを信じて疑はない。謹んで祝辞を呈す」〔中略〕それより大正十二年度予算案を始め、政府提出の重要法案は議員提出に係る行財政整理に関する建議案、並に露西亞政府承認案と共に通過し三月二十六日同議會は無事終了した。①

震災に際し罹災者の救助と慰撫に努めた粕谷は、埼玉救護団を組織した山口六郎次を支援する。衆議院としては書記官長中村藤兵衛に補佐され、救済組織結成のため実業界と連携すべく渋沢栄一と会談した。九月九日の貴衆両院及実業家代表協議会、翌々日の災害発起人会で重要な役割を担ったことは前述のとおりである。

粕谷義三と罹災者救援

衆議院議長粕谷義三は他の本県（埼玉県）選出代議士、及び県會議員等と共に自ら罹災者救助に起ち、或は帝都と本県との連絡を執り連日此間を奔走して県当局と強心戮力、其善後処置に努めて居たが、一旦破壊された鉄道が日暮里赤羽間および川口大宮間の折返し運転による列車の閉通を見た後には、列車の窓と云わず屋根裏まで鈴なりの罹災民と一所に浦和駅に着くや、身動きもならぬ群衆に対し、一々「御免下さい」と

① 粕谷義三頌徳記念会編『竹堂粕谷義三伝』一九三四年。二五一―二五三頁。

〔参照〕〔第四十六回帝國議會 衆議院速記録第四号〕『官報号外』印刷局、大正十二年一月二十五日。

丁寧に挨拶しながら静かにフラットフォームい降り立つ粕谷議長の背広姿を爾来約二ヶ月の間認めない日はなかった。是の如き多忙の非常時に於て罹災民は不安と焦燥の渦巻に巻き込まれ一路生への執着の為に他を顧みる暇なく、秩序は破壊され終に戒厳令下の軍隊の力に依りてわずかに維持さるるまことに危険な際に於いても、平日と異なる処なく、列車内の群衆に対して儀礼を守り爾来数旬に亘り帝都並に県下の罹災民救助と共に其の復興に向って身は衆議院議長の重職に在りながら東奔西走、全く寧日なかった。当時埼玉及埼玉県人を主宰する山口六郎次は在京罹災者埼玉県人救護の必要を感じ率先埼玉救護団を組織するや粕谷は自ら日比谷の事務所を訪ひ山口を激励し或は避難民を鼓舞する等、粕谷の活動振りは其の崇高なる人格の反映であると共に「人間粕谷」の真骨頂を遺憾なく發揮されたのであった。

尚商工会議所内に公爵徳川家達を会長に関東大震災善後会の組織せらるるや子爵洪沢栄一と共に副会長に推され帝都復興に尽瘁せられたる市民の記憶に新なる処である。同年十二月十一日第四拾七震災復興議会は召集され、翌十二日衆議院は粕谷議長の名に於て、「衆議院は振古未曾有の震災に關し不測の慘禍を被りたる内外国民に対し、ここに院議を以て満腔の同情を寄せ、特に幾方の歿死者に深甚なる哀悼の意を表す」と決議し官民を挙げて帝都、横浜西市をはじめ関東震災地一帯の復興に精進するに至り、政府は十二月十九日臨時物資供給特別会計令を公布した。①